

令和3年度 生命医科学域セミナー I

演題：細胞障害関連分子（アラミン）による
免疫制御機構の解明：
慢性炎症・がんの病態抑制法の開発を
目指して

演者：柳井 秀元 先生

東京大学先端科学技術研究センター・
炎症疾患制御分野 特任准教授

日時：令和3年12月9日（木）17時～18時

会場：健康医科学イノベーション棟8階講堂

要旨：

自然免疫系は病原体認識の最前線を担っており感染防御において必須の役割を果たす。一方、自然免疫系は感染を伴わない免疫応答にも深く関与し、この応答の持続は糖尿病や動脈硬化症などの慢性炎症病態の増悪、およびがんにおける適応免疫系の疲弊の一因となることが明らかとなりつつある。従って、「感染なき免疫応答」を分子、細胞レベルで理解することは、病態解明と制御法の開発に重要であると考えられる。特に最近、死細胞や障害を受けた細胞に由来する細胞障害関連分子（異常を周囲に知らせることからアラミンとも呼ばれている）が「感染なき免疫応答」の誘導や制御に関与することが示唆されており、注目されている。

本講演では、これまで明らかにしてきた感染時のI型IFN誘導機構について、また、独自に解明に取り組んできた細胞障害関連分子による免疫制御機構についてご紹介したい。また、今後の研究の展開、抱負についてお話ししたい。